

都市戦略部 マネジメント方針

都市戦略部では市長との政策協議のもと、次のとおり基本方針・組織目標・行動目標を定めました。この方針に基づき目標の達成に向け着実に取り組みます。

令和3年4月1日

都市戦略部長 桑 原 雄 二

【基本方針】

子どもから高齢者まで、全ての市民が安全・安心で豊かな生活を送ることができるよう、市民と行政が手を携え、民間の活力を活かしながら、誰もが住み続けたい、住んでみたいと思える「みんなが輝く全国に誇れるふくい」の実現に向け、積極的に取り組みます。

まず、北陸新幹線福井開業を見据え、福井駅周辺において、東口拡張施設や市街地再開発など民間と連携し、県都の玄関口にふさわしい魅力と賑わいのあるまちづくりをすすめます。

次に、本格的な人口減少・少子高齢社会が進展するなか、福井市都市計画マスタープラン（平成22年～令和12年）に基づき、市街地や農山漁村部など地域の特色を活かし、土地利用の適正化などを図り、持続可能なまちづくりをすすめます。

また、並行在来線会社の設立など、本市の交通環境は大きく変わろうとしており、第2次福井市都市交通戦略（令和3年度～12年度）に基づき、地域をつなぐ「全域交通ネットワーク」づくりをすすめます。

さらに、高齢者をはじめ誰もが安全で安心な暮らしをおくることができるよう、第11次福井市交通安全計画（令和3年度～7年度）に基づき、交通安全対策をすすめます。

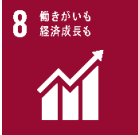
最後に、国のデジタル社会の実現に向けた方針を見据え、市民の満足度の高い行政サービスの提供や効率的で持続可能な行財政運営のため、自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）をすすめます。

【組織目標】

- I. 北陸新幹線福井開業に向けて、福井駅周辺での取組を確実に進め、県都の玄関口にふさわしい魅力と賑わいのあるまちづくりをすすめます
- II. 福井市都市計画マスタープラン（平成22年～令和12年）に基づき、適正な土地利用の誘導と快適な生活環境の維持に努め、持続可能なまちづくりをすすめます
- III. 第2次福井市都市交通戦略（令和3年度～12年度）に基づき、地域をつなぐ「全域交通ネットワーク」の構築をすすめます
- IV. 第11次福井市交通安全計画（令和3年度～7年度）に基づき、交通安全対策をすすめます
- V. デジタル技術等を活用し、市民の利便性の向上や業務の効率化のための各種施策をすすめます

【行動目標】

組織目標Ⅰ 北陸新幹線福井開業に向けて、福井駅周辺での取組を確実に進め、県都の玄関口にふさわしい魅力と賑わいのあるまちづくりをすすめます

行動目標	SDGs 指標
1 民間主体のまちづくりの推進 福井駅周辺を魅力と賑わいある市街地へ再整備するため、民間が主体となった再開発事業への支援を行い、商業、文化、医療、居住等の複合的な都市機能の充実を図ります。 複数の再開発事業を確実にすすめるため、工事スケジュールの調整など事業者間の連携強化を図るとともに、事業のPRイベントを開催し、地元の理解と機運醸成に努めます。 また、県、市、商工会議所で組織する県都にぎわい創生協議会（※）での議論を踏まえ、更なる民間が主体となるまちづくりをすすめます。 ⑤ 民間主体によるまちづくりへの支援件数 : 3件 再開発事業等連絡調整会議の開催 : 2回以上 再開発事業PRイベントの開催 : 12月 県都にぎわい創生協議会、部会の開催（ランドデザイン策定） ※ 県都にぎわい創生協議会 福井駅周辺において持続的な賑わいを創生し、その賑わいを県下一円に波及させることを目的に県、市、商工会議所により令和2年7月に設置された。エリアマネジメント部会、新幹線開業準備部会の2つの部会において議論を進めている。	 8 働きがいも経済成長も  11 住み続けられるまちづくりを
2 中心市街地の賑わい創出 賑わいと交流の拠点であるハピリンを中心とした様々なイベントを開催し、周辺施設や関連団体と連携して、中心市街地全体で歩行者の回遊性を高めます。 ⑥ ハピリン入込客数（※1） : 268万人（元年度）→ 157万人（2年度）→ 200万人（3年度） ハピリン来場者数（※2） : 48万人（元年度）→ 24万人（2年度）→ 35万人（3年度） 歩行者・自転車通行量（中央1丁目） : 35,781人（元年度）→ 34,876人（2年度）→ 36,000人（3年度） ハピリンと近隣商業施設との連携イベントの開催 : 4件 ※1 ハピリン入込客数 ハピリン内全施設への入込客数の合計 ※2 ハピリン来場者数 福福館、セーレンプラネット、ハピテラス及びハピリンホールの来場者数の合計	 11 住み続けられるまちづくりを

行動目標	SDGs 指標
3 居心地がよく歩きたくなるウォーカブルなまちの推進 歩いて楽しいまちを創出するため、福井駅周辺の地区交通戦略を策定します。 福井城址周辺の道路整備を継続して行い、周辺事業者と連携したイベントに取り組み、まちなかの観光資源の魅力向上を図ります。 また、中核市として、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町の魅力ある自然、歴史、文化などの地域資源のPRや体験イベントを開催します。 地区交通戦略の策定 : 12 月 福井城址周辺道路整備の推進 : L=200m 福井城址回遊プロジェクト(※1)の実施(イベント開催) : 4 回 中心拠点(※2)の賑わい創出イベント実施 : 8 月 ※1 福井城址回遊プロジェクト 福井城址周辺の回遊性を高めるため、城址東側エリアにおいてテイクアウト店舗によるカフェイベント等を開催 ※2 中心拠点 高次の都市機能の集積・強化を図る福井駅周辺エリア	11 住み続けられるまちづくりを 
4 北陸新幹線の建設促進 北陸新幹線の工事がこれ以上遅れることなく確実に開業できるよう、国、県との連絡を密にし、連携して取り組みます。 現在すすめている福井駅東口拡張施設(仮称:観光交流センター)については、福井駅舎と一体的な施設となるため、関係者と協議しながら計画的にすすめるとともに、本年度は施設の管理運営の方針を定めます。 また、敦賀・大阪間については、令和5年度当初に着工するため早急に財源を確保し、大阪までの早期全線開業に関係機関と連携して取り組みます。 福井駅東口拡張施設(仮称:観光交流センター)建築工事着工 : 9 月 拡張施設の管理運営方針の決定	9 産業と技術革新の基盤をつくろう  11 住み続けられるまちづくりを 

組織目標Ⅱ 福井市都市計画マスタープラン（平成 22 年～令和 12 年）に基づき、適正な土地利用の誘導と快適な生活環境の維持に努め、持続可能なまちづくりをすすめます

行動目標	SDGs 指標
5 適正な土地利用の推進 福井市都市計画マスタープラン（平成 22 年～令和 12 年）の目指すべき都市像の実現に向けて、都市計画制度の適正な運用を図るため、昨年度の福井都市計画区域に引き続き、嶺北北部都市計画区域の都市計画基礎調査を行います。 また、地域拠点（※）である美山駅周辺や越廼公民館周辺において、住民、民間の事業者、大学等と協働し、地域の将来像や、その課題を見極めるための交通の社会実験などをとりいれたワークショップを開催します。 都市計画基礎調査（嶺北北部都市計画区域）の実施 ワークショップ等の開催 ： 4 回 ※ 地域拠点 過度に自動車に頼ることなく日常生活を送ることができるよう、現在の機能の集積状況や、立地特性、土地利用の経緯などを踏まえ、公共交通と連携した場所	 
6 街路整備の推進 まちの骨格となる幹線道路について、計画的に整備を進めます。 志比口開発線は、隣接する環状東線の混雑緩和と福井森田道路からの新たな交通流入に対応するため、今年度供用を開始します。 都市計画道路整備率（※） ： 83.9%（元年度） → 84.0%（2 年度） → 84.1%（3 年度） 志比口開発線の供用開始 ※ 都市計画道路の整備率（整備済延長累計／都市計画決定延長） 令和 2 年度実績 196,320m／233,680m≒84.0% 令和 2 年度整備延長 270m（志比口開発線 270m） 令和 3 年度目標 196,630m／233,680m≒84.1%	 
7 県都にふさわしい良好な景観形成 県都にふさわしい美しい街並みをつくるため、民間が行う良好な景観に配慮した建築物等の更新やまちの魅力向上に資する事業に支援します。 また、福井らしい景観をつくり・育てるために、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町と連携した広域的な景観の形成をすすめます。  3 民間活力による県都にふさわしい景観形成への支援 ： 8 件 広域景観形成の P R 動画作成	

組織目標Ⅲ 第2次福井市都市交通戦略（令和3年度～12年度）に基づき、地域をつなぐ「全域交通ネットワーク」の構築をすすめます

行動目標	SDGs 指標						
8 ⑧選択性のある二次交通の充実と利用環境・利便性の向上 公共交通相互のモビリティネットワークを充実し、「行きたいところにスムーズに行ける」交通環境を構築するために、フルデマンドタクシー（※1）の導入や、中心市街地の店舗と連携した運賃割引、越美北線沿線でのアンケート調査などを行います。 また、地域拠点や乗継拠点における乗継ぎの利便性や待合の環境向上に向け、大型商業施設における案内サインの整備などを行います。 ⑧ 15, 16 公共交通機関（※2）の乗車人数 ： 895 万人（元年度）→ 673 万人（2 年度見込）→ 800 万人（3 年度） ※1 フルデマンドタクシー 路線バスの維持が困難な地域の公共交通として、定員 10 名以下のタクシー車両を活用し、時刻表によらず、利用者の予約に応じて運行するもの。 ※2 公共交通機関 えちぜん鉄道、福井鉄道、路線バス（地域バス、コミュニティバスを含む）を対象とする。							
9 連携中枢都市圏におけるM a a Sによる交通システムの構築 日常の生活や観光において、その目的に応じたスムーズな移動を支援するため、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町と協働してM a a S（※）の導入に向けた勉強会を行います。 住民や観光客にとって便利で、公共交通の利用促進につながるM a a Sシステムの導入を目指し、今年度は導入のための実証実験の計画を作成し、令和5年度の本格導入を目指します。 M a a Sシステム実証実験の計画作成 ： 2 月 ※ M a a Sとは、Mobility as a Services の略 ◇M a a Sシステム導入スケジュール <table border="1" data-bbox="244 1697 1230 1991"> <tr> <td>令和3年度</td><td>M a a Sシステム導入のための勉強会の開催、実証実験準備、協議会設立意向確認</td></tr> <tr> <td>令和4年度</td><td>福井嶺北版M a a S協議会の設立、実証実験、本格導入準備</td></tr> <tr> <td>令和5年度</td><td>本格導入、利用状況等の追跡、分析等→改良点などの協議</td></tr> </table>	令和3年度	M a a Sシステム導入のための勉強会の開催、実証実験準備、協議会設立意向確認	令和4年度	福井嶺北版M a a S協議会の設立、実証実験、本格導入準備	令和5年度	本格導入、利用状況等の追跡、分析等→改良点などの協議	
令和3年度	M a a Sシステム導入のための勉強会の開催、実証実験準備、協議会設立意向確認						
令和4年度	福井嶺北版M a a S協議会の設立、実証実験、本格導入準備						
令和5年度	本格導入、利用状況等の追跡、分析等→改良点などの協議						

行動目標	SDGs 指標
1 0 並行在来線開業準備 並行在来線の開業が遅れることによる新たな自治体負担が生じないように、県や沿線市町等と連携し取り組みます。 円滑な開業準備に向け、経営計画を策定するとともに、将来の利用促進につながる新駅の設置やパーク＆ライド駐車場の整備などの検討をすすめます。 総 10 経営計画（※）の策定 : 10 月 利用促進策の市民意向調査 ※ 経営計画 並行在来線の運行計画、資金計画、利用促進策等について、福井県並行在来線対策協議会が策定する計画	
1 1 自転車の利用促進と利便性の向上 最寄りの鉄道駅への移動手段として自転車の利用を促すため、自転車駐車を整備し、利用環境の改善を図ります。 また、安全かつ快適に自転車利用ができる環境づくりの一環として、新たな自転車の駅（※）を設けます。 サイクルアンドライドの推進 : 鉄道駅自転車駐車の整備 カ所 自転車の駅の新規開設 : 2 カ所 ※ 自転車の駅 自転車利用者のサービススポット。コンビニエンスストアや鉄道駅等にて空気入れや自転車用工具の貸出、トイレの提供等のサービスを行う。	 
1 2 市営駐車場の適正な運営 適正で効率的な市営駐車場を運営するため、施設の修繕等を計画的に実施します。 また、福井駅周辺での買物や土日祝日のイベント等で、市営駐車場を気軽に利用できるよう、他の駐車場事業者と連携した利用促進策に取り組みます。 市営駐車場の駐車台数 : 53.9 万台（元年度） → 48.9 万台（2 年度） → 56.8 万台（3 年度）	

組織目標Ⅳ 第 11 次福井市交通安全計画（令和 3 年度～7 年度）に基づき、交通安全対策を
すすめます

行動目標	SDGs 指標
13 新 高齢者と子どもの事故防止 交通事故による「死者数・重傷者数」（※）を減らし、交通事故の少ない安全で安心なまちをつくります。 子どもや高齢者を対象とした交通安全教育を充実するために、人材の育成に努めます。 また、自転車の事故を防止するため、自転車通学の中学生を対象に正しい交通ルールの周知とマナーの啓発を行います。 交通事故死者数 ： 7 人（元年）→ 11 人（2 年）→ 7 人以下（3 年） 交通事故重傷者数 ： 80 人（元年）→ 60 人（2 年）→ 40 人以下（3 年） 交通安全指導者マニュアルの作成 中学生を対象とした自転車ルール・マナーの啓発活動 ： 2 校 ※ 死者数・重傷者数 令和 7 年までに達成すべき基本目標値（第 11 次福井市交通安全計画） ・死者数 7 人以下 ・重傷者数 40 人以下	3 すべての人に健康と福祉を  11 住み続けられるまちづくりを 
14 新 車に頼り過ぎない社会づくり 高齢者の運転による事故を防止するため、自身の運転能力を測るためのセルフチェックを呼びかけ、運転に自信のない方への免許の自主返納を促します。 また、来街者がまちなかを快適に回遊できるよう、まちなかレンタサイクル「ふくチャリ」（※）の利用促進を図ります。 総 66 高齢者運転免許証自主返納者数 ： 990 人（元年）→ 869 人（2 年）→ 1,000 人（3 年） ふくチャリの利用回数 ： 7,240 人（元年度）→ 3,686 回（2 年度）→ 5,000 回（3 年度） ※ ふくチャリ 市民や観光客等の来街者に対してレンタサイクルを提供することで、まちなかにおける利便性と回遊性を高めるため、ホテルや観光・公共施設等とともに「レンタサイクル運営協議会」を設立している。 協議会では、電動アシスト自転車を配備し、自転車の再配置や点検、電話対応などを行っている。 ○貸出場所数 15 カ所 ○台数 37 台	3 すべての人に健康と福祉を  7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 

組織目標Ⅴ デジタル技術等を活用し、市民の利便性の向上や業務の効率化のための各種施策をすすめます

行動目標	SDGs 指標
15 新 ICT利活用推進計画の改定 今年度は福井市 ICT利活用推進計画（平成 30 年度～令和 3 年度）の最終年度であり、今後の自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）に向けて計画の改定を行います。 計画の改定にあたり、国の自治体DX推進計画（令和 3 年 1 月～8 年 3 月）や（仮称）自治体DX推進手順書を参考に、ICTの利活用による市民の利便性の向上や業務の効率化を計画的に推進していくための将来像と目標を設定します。 ICT利活用推進計画の改定	
16 新 自治体DXを推進するための取組 国の自治体DX推進計画（令和 3 年 1 月～8 年 3 月）に基づき、業務の効率化を図るため、行政手続のオンライン化、AI・RPA（※）の利用推進、オープンデータの推進に取り組みます。 オンライン化申請手続 : 19 手続（元年度） → 19 手続（2 年度） → 25 手続（3 年度） RPA 導入業務数 : 5 件（2 年度） → 7 件（3 年度） オープンデータ数 : 111 件（元年度） → 119 件（2 年度） → 122 件（3 年度） ※ RPAとは、Robotic Process Automation の略 定型業務の自動化。人間がコンピュータを操作して行う作業を、ソフトウェアによる自動的な操作によって代替する仕組みのこと。	 
17 デジタル人材の育成に向けた研修機会の創出 職員に対して、GIS（※1）研修や Access（※2）研修を実施するとともに、国及び県が実施する統計や電子申請システムの操作研修等を活用し、デジタル人材の育成に向けて研修の受講機会を増やします。 研修回数 : 8 回 ※1 GIS（ジー・アイ・エス）とは、Geographic Information System の略 位置情報を持った空間データを統合的に管理・加工し、視覚的に表示することで、高度な分析や迅速な判断を可能とするシステムのこと。 ※2 Access（アクセス）とは、Microsoft 製のデータベース管理ソフトウェア データの管理、保存に優れ、プログラミングの経験が少ない職員でも、比較的容易に簡単なシステムを構築することができる。	